

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設置時 (H26年12月)	1 設置の趣旨・目的等が活かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、学術の理論および応用を教授研究するという大学院の目的に照らし、開設時から充実した教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。	留意事項	<p>留意事項を踏まえ、認可後の平成27年1月14日に全学教員集会を開催して、全教職員を対象に大学院設置の趣旨・目的及び設置計画の詳細を学長より説明するとともに、大学院開設後の課題について周知を図った。また、設置認可に先立って準備していた研究科設置準備委員会を、平成26年12月には本格的に立ち上げ、入学者選抜の準備及び実施にあたるとともに、「履修の手引」「履修ガイドブック」等の作成にあたった。さらに、研究科の運営に必要な諸規程の整備を進めるとともに、運営体制を整えて研究科開設に備えた。平成27年4月4日には、入学者4人（一般2人、社会人2人）を迎え、授業及び研究指導の開始にあたって必要なオリエンテーションを実施するとともに、4月9日からの授業開始後は、研究指導科目を含め授業の確実な実施に努めている。また、大学院に相応しい水準の研究活動を展開するため、3月末までに図書898冊（うち洋書387冊）、雑誌22誌（うち洋雑誌14誌）、電子ジャーナル2パッケージ（6,657誌）を新たに整備した。（27）</p> <p>留意事項を踏まえ、平成27年4月入学の第1期生4人（一般2人、社会人2人）について、設置計画に基づいて授業及び研究指導を確実に実施するとともに実施研究指導スケジュールに従って10月、2月には研究経過報告会を開催した。学生は、それぞれのテーマで修士論文作成に向けての研究を深めつつあり、学外での調査研究や学会への参加も進んでいる。12月には「大学院における教育・研究指導の実践と現状の課題」をテーマにFDワークショップを開催するとともに、2月には学生と学長との懇談会も開催し、学習環境・研究環境に対する要望も把握しながら大学院課程に相応しい水準での教育研究指導を展開している。また、平成28年4月には、第2期生3人（一般3人）を迎え、1年次及び2年次生が揃うなかで2年目の授業及び研究指導を開始している。（28）</p>	

<p>設置時 (H26年12月)</p>	<p>2 本学が目指す都市経営学は、「実践性に重きを置き」としており、高度な実践力を備えた人材育成のための教育課程とするため、今回、事例研究の単位数増を図ったことから、この趣旨の教育課程として必要最小限の要件は満たすものと認められる。</p> <p>しかし一方で、教育課程の中で例えば、実践力を身に付けるための授業内容を新たに盛り込み改善したとして今回示された2科目（「環境地理学特講」、「地域産業論特講」）においても、目標とする人材育成をより効果的に達成するためには、まだ改善の余地があると思われる。また、事例研究についても、単なる事例紹介に留まっていたり、具体性に欠けるため事例研究とは言い難い部分があったりするなど、実践力の養成という趣旨に鑑み内容の検討が望まれる部分がある。したがって、実践力を養うという観点から、教育方法等を含め、教育課程についてさらなる工夫の余地がないか検討し、より一層の充実を図ること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>留意事項を踏まえ、授業及び研究指導の方法や内容を工夫し、より充実した形で実践力が育成できるよう改善を図ることとしている。</p> <p>具体的には、計画・環境系の専門科目「環境地理学特講」【講義】の授業では、第6回「斜面崩壊と土石流」、第7回「氾濫と河川地形」の授業に関連して、休日を利用して広島県内で生じた過去の災害発生箇所を実際に巡検し、地形図や空中写真等だけでは分からない災害現場の実際を体感させるとともに、地形が変化する過程を現場で確認させる。また、第14回「災害マップの作成」にあたっては、福山市内の自治会に協力を要請し、住民の意見を聞きながら作業を進め、ハザードマップの作成に取り組ませることを予定している。</p> <p>また、事例研究科目「都市経営学事例研究C（都市環境）」【演習】では、第1～7回の授業で実際の事例に関する論文や具体的なデータをもとに、学際的な視点から実践的な手法やその応用についての授業を行い、第8回～15回の授業でフィールド調査、情報収集、住民とのワークショップなどを通じて都市の在り方を議論することにしており、適宜、現場を担当する実務専門家の議論への参加を得ることを予定している。</p> <p>さらに、事例研究科目「都市経営学事例研究E（社会システム）」【演習】では、都市経営における実践を効果的なものにするためには、対象地域に対する知識ばかりでなく、社会全体における変化の潮流や、</p> <p>諸外国の状況をも把握しておく必要がある。このため、本事例研究は、実践力を直接的に養成することよりも、効果的な実践を可能にするための、社会の動向を鳥瞰する力を養成することを目的としている。このため、授業においては鳥瞰的視点と各種の実践とがどのように結びつくかを議論することに焦点を合せつつ、第6回以降の授業で展開する各種事例の研究においては、文献講読に加えて、当該実践を行っている関係者を招いて議論することを予定している。</p> <p>なお、本留意事項を踏まえた実践力の育成のための各授業科目の内容及び方法の改善・工夫については、学長より4月7日付で研究科担当の全教員あて、取組の要請を文書で行った。工夫・改善の実施状況については、前期・後期の授業終了後に調査し、次年度の設置計画履行状況報告書において報告することを予定している。(27)</p>
--------------------------	--	-------------	--

			<p>留意事項を踏まえ、授業及び研究指導の方法や内容を工夫によって実践力が育成できるよう改善を図った。</p> <p>具体的には、「都市経営学総論A」（履修者4人）では都市のアメニティーについて福山市を想定した調査・報告、都市の水マネジメントの海外の実践事例、愛知県犬山市の景観計画の事例、モビリティマネジメントの実践事例等を、「都市経営学総論B」（履修者4人）では地域経済分析システム（RESAS）の具体的な使い方等を扱うことによって実践力の育成を図った。</p> <p>また、「都市空間デザイン特講」（履修者2人）では都市の現地訪問によって街並みの空間構成要素間の関連性の理解を促すとともに、「都市基盤工学特講」（履修者3人）では国土審議会、社会資本整備審議会等の各種資料を用いて先端的な取組の実践面からの理解を促すことによって実践力の育成を図った。</p> <p>「都市生活学特講」（履修者3人）では住宅団地の計画手法等について授業担当者の実務経験に基づく事例について実証的考察を進めるとともに、「都市社会学特講」（履修者1人）では地域サービスの協働提供論の議論にあたって独居高齢者見守りの地域サービスの具体例を、「共生社会論特講」（履修者1人）では質的調査を踏まえた実践研究を取り上げて実践力の育成を図った。</p> <p>さらに、「都市経営学事例研究C（都市環境）」（履修者2人）では水インフラに関連して福山市上下水道局を訪問し技術担当者との意見交換の場を設けるとともに、都市災害に関連して野外での地震計の設置や卓越周期の推定の実際を学ぶとともに、広島市における土石流災害の現地視察など実施して実践力の育成を図った。</p> <p>このほか、「都市経営学特別研究I」（履修者4人）においても、住民アンケートの実施、地理情報システム（GIS）の習得・活用、Pro-Questによる先端研究のレビュー、世羅町第6次産業ネットワークのフィールド調査等の取組みによって実践力育成の充実を図った。（28）</p>	
--	--	--	--	--

<p>設置時 (H26年12月)</p>	<p>3 本研究科の教育研究の柱である2領域のひとつ「経済・社会系」について、持続可能な地域社会の発展を担う人材を育成するという本研究科の趣旨を踏まえれば、その科目内容や体系的にさらなる改善・充実が望まれる部分はあるものの、教育課程として法令の要件を満たさないとまでは言えない。</p> <p>しかしながら、とりわけ領域名称については何らかの対応が望まれる。すなわち、領域名称を「経済・社会系」とすることについて、理由が全く説明されておらず、「社会」を付すことと教育課程との整合性が不明である。したがって、領域名称の意図や教育課程との関係を整理した上で、それを学生や社会に対して適確に周知し、誤解を招くことのないようにすること。特に、学位の分野としては社会学が含まれないとしたにもかかわらず、領域名称には「社会」という社会学の対象そのものと思われる名称を付したことについては、その整合性が必ずしも明確とはいえないことから、学生や社会に対して丁寧に説明するとともに、必要に応じて領域名称の変更についても検討すること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>留意事項を踏まえ、4月4日に実施した平成27年度入学者4人（一般2人、社会人2人）を対象に実施したオリエンテーションにおいて、研究科長より、本研究科における研究指導分野の設定の考え方について、資料に基づき説明を行った。その中で、「経済・社会系」では、専門科目として12の授業科目を、また事例研究科目にも関連する3つの授業科目を開設しているが、「経済・社会系」から想定される、いわゆる「経済学(Economics)」や「社会学(Sociology)」を学ぶための体系的な教育課程を編成している訳ではないこと、本研究科の設置の趣旨にしたがって、都市社会のあり方を探究するために不可欠な社会科学系の授業科目を幅広く学びながら、自らの研究課題に則して、探究の方向を地域経済や地域社会の在り方に焦点化していくことが可能な教育課程を編成していることを説明し、学生の理解を得ている。</p> <p>今後は、次年度の入学者確保に向けた大学院の広報活動においても、研究指導分野の設定の考え方について、誤解が生じないように丁寧に説明していくことを予定している。</p> <p>なお、「経済・社会系」の名称変更については、今後の教育研究指導の推移を見ながら、その必要性を見極めていくこととしている。(27)</p> <p>留意事項を踏まえ、4月4日に実施した平成28年度入学者3人（一般3人）を対象に実施したオリエンテーションにおいて、本研究科における研究指導分野の設定の考え方について、資料に基づき平成27年度と同様の説明を行い、学生の理解を得ている。(28)</p>	
<p>設置時 (H26年12月)</p>	<p>4 完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について着実に実施すること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>該当なし (27)</p>	<p>平成27年4月の開設時に専任教員15人を配置したが、うち2人が定年（65歳）を超えていたため、定年規程の特例を適用して配置した。その内訳は、次のとおりである。</p> <p>教員B【71歳】 教員D【69歳】 これら2人の定年超え教員は、研究科開設後2年を経過した平成29年3月末の退職を予定しており、平成27年度より後任補充に取り組むこととしている。(27)</p>

			<p>平成27年5月1日時点で、都市経営学研究科（専任教員15人）に2人の定年（65歳）超え教員を配置していた。その内訳は、次のとおりであった。 教員B【71歳】 教員D【69歳】</p> <p>このうち、教員Dは平成28年3月末に退職し、教員Bは平成29年3月末に退職を予定している。</p> <p>なお、平成27年度中に教員F【65歳】が新たに定年超えとなり、平成28年5月1日現在、定年超え教員は計2人となっているが、教員Fも平成29年3月に退職を予定しており、平成29年4月1日付で次のとおり後任を採用することを決定している。（年齢は就任時年齢） 教員F⇒教員F」【35歳】</p> <p>具体的には平成27年12月16日の教授会及び12月25日の研究科教授会で採用を決定し、平成28年1月22日の評議会に報告している。（28）</p>	<p>教員Bの後任については、平成28年度中に後任の採用を決定することになっている。（28）</p>
<p>設置時 (H26年12月)</p>	<p>○授業内容の一部に社会調査（質的調査）の内容を3コマのみ盛り込んでいるが、社会調査の方法論を構造的に学ぶことができるよう、例えば、質的・量的調査をカバーするような社会調査法の科目及び社会調査実習の科目を設けるなど、さらなる充実が望ましい。その際、より充実させるのであれば、量的調査、質的調査に関する内容については、それぞれに特化した独立した科目として設けることが望ましい。</p>	<p>その他意見</p>	<p>意見を受けて、次年度以降に質的調査と量的調査をともにカバーできる授業科目の増設を検討する予定にしている。（27）</p> <p>意見を受けて、平成28年度より新たに「質的調査法特講」（1・2年次前期、2単位）を専門科目（経済・社会系）の選択科目として開設し、兼任教員（吉田舞）で担当することにした。（28）</p>	
<p>設置計画履行状況調査時 (H28年2月)</p>	<p>該当なし</p>			

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）